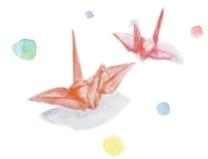


就職活動が人生に何回もある時代

全国で約70万人と言われる就活生の1%にあたる7000人がプレスタに登録。過去10年を振り返ると、3人に1人は「しがく式」に興味を持ち、リーダーシップを学んできました。コロナ禍も2年半が経ち、就活を始めるタイミングが早まる中で、大学3年生から「今からしがく式を始めるのは遅いのではないですか?」という声が増えています。今回はその点における私の見解を述べたいと思います。



こ のコラムを読んでいるほとんどの方が、学生時代に受験を経験していると思います。少しでも良い高校、良い大学を目指して勉強をしたことでしょう。そして就活が始まると、良い企業を目指します。では、良い企業の定義とは何でしょうか。

「有名な企業」「売上の高い企業」などを挙げる人が多いと思いますが、果たしてそのような企業に入社した全員が幸せなのでしょうか。私は、就活をするうえで「ご縁」と「直感」を大切にしよう」と指導しています。もちろんネームバリューや売上も大切な指針になるでしょう。日本には約270万社の企業があるとされており、就活中に出会える企業は多くても100社くらいでしょうか。つまりほとんどの企業に触れることもなく就活は終了します。

中小企業から良いアプローチがあり、自分も良いと思っているにも関わらず、少しでも有名な企業、少しでも売上の高い企業を求めて就活を長引かせることは、人生にとって本当に有意義なのでしょうか。同じ経験をして、人によって捉え方は異なり

ます。転職をしなかったことを後悔する人もいれば、転職を繰り返して失敗したという人もいます。であるならば多くの企業の中から出会った「ご縁」と、自分が良いと思った「直感」を信じた方が、入社後に失敗したと感じても、前向きな気持ちになれるのではないのでしょうか。

就

活を終えた学生に伝えたいのが、「3年後にもう一度就活をする可能性もある」ということです。日本の雇用形態は終身雇用の時代から変化してきていま

3人に1人はもう一度就活をするわけです。20代で転職する割合は約3割。つまり3人に1人はもう一度就活をするわけですが、そのときに望み通りの転職を実現する条件は、能力があるかどうかです。岸田総理も先日、リスクリング（働く人の学び直し）関連の支援として5年で1兆円の公的支援を表明しました。働きながら仕事の能力を高め、キャリアアップの転職が成功すると、お給料も上がっていきます。

能力には様々なありますが、特に重視されるのが、リーダーシップなどの人間力です。

世間では組織を俊敏かつ円滑に回せることを意味する「アジャイル」でできるリーダーが求められています。技術や知識がどれだけあっても、人間力がないと人間関係で行き詰まることになるでしょう。キャリアアップの転職にはリーダーシップ、人間力を身につけておくことが有利ということ。これは社内でのキャリアアップも同じです。

2023年でしがく式を始めて10年が経ちますが、しがく社会人部にはしがく式で実力をつけ、出世や転職をして大幅に収入を上げたメンバーが多くいます。「今からしがく式を始めるのは遅いのではないですか?」という質問の答えは「今から始めるから意味があるんだ」です。しがく式は、目の前の就活のためではなく、魅力的な社会人になるためにあります。

身につけた実力を今の会社で活かすも、転職して別の会社で活かすも自分次第。実力があればどんな状況も楽しむことができます。大学生の皆さんは目の前の就活ではなく、将来のために実力をつけて、素晴らしい未来を切り拓いてほしいと思います。

(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長 室舘 勲
MURODATE Isao

2003年株式会社キャリアコンサルティングを設立。ブータン王国立マネジメント大学など講演実績多数。全国社内木鶏経営者会 副会長。ミス・ワールド・ジャパン講師・審査員。著書に「夢を見て 夢を叶えて 夢になる」(致知出版社)、「まずは上司を勝たせなさい」(講談社)、「応援される人」になりなさい」(ワック)がある。